

令和4年4月19日(火)

【第23回北陸地域連携プラットフォーム】

## プレゼンテーション

テーマ：「コンテンツの魅力で誘致する企業研修と教育旅行～オープンSABAE～」

説明者：NPO法人エル・コミュニティ代表 竹部 美樹

福井県鯖江市から参りました竹部と申します。

私は、鯖江生まれ鯖江育ちですが、2回東京に出ています。その後、二度のUターンを経て、今は鯖江大好き人間として鯖江で地域活動をしております。毎日ブログを書いておりまして、活動内容を発信しております。尊敬する人は鯖江市の前市長、牧野市長が大好きです。

「めがねのまちさばえ」ということで、これは鯖江の正式ロゴになっています。鯖江市内の福井銀行さんとか信用金庫さんとか、全ての銀行さんでこの「めがねのまちさばえ」というのを掲げられていらっしゃるし、私たち民間もこのように自由に使っております。鯖江市役所に行ってもこのロゴがたくさん掲げられています。皆さんも御存じかと思いますが、鯖江といえば眼鏡のフレーム国内シェアの約9割ということで、メイドインジャパンであれば鯖江で作られています。

ですが鯖江は眼鏡だけではなくて、繊維と漆器と合わせて3大地場産業のまちです。

一方で、観光資源は残念ながらほとんどございません。西山公園がありますけれども、すごく小さな小山で、どちらかという市民の憩いの場となっています。

このように鯖江市は「ものづくり」中心のまちですが、眼鏡も漆器も繊維もなかなか厳しい状況となっています。

こうした中でも、若手を中心に第4の産業をつくりましょうということで、ITにも非常に力を入れています。

2010年に日本で初めて鯖江はオープンデータに取り組んでおり、全国的にもオープンデータ先進地となっています。オープンデータというのは、例えばAEDの設置場所など行政が持つ様々な情報を統一データとして公開し、民間が自由に活用するという仕組みです。世界ではオープンデータの活用がスタンダードになっていますが、日本はだいぶ遅れています。総務省は2012年に開始していますので、それよりも2年早く鯖江はやっています。

さらに、行政がどんどんデータを公開しても、そのデータを活用する民間がないと駄目ですよね。アプリをつくれる人材がないと駄目ですよね。なので、鯖江の場合は、だったら人材も育成していきましょうということで、IchigoJamという鯖江生まれのパソコンを使ってプログラミング教育を2014年から開始しています。いまだに何していいか分からなくて動いていない自治体もある中、鯖江は2014年からやっています。

次に私がやっている活動をまず紹介していきます。活動を通じて観光コンテンツに繋がっていることを説明したいと思います。

私が最も力を入れて15年前からやっているのが、鯖江市地域活性化プランコンテストで、「市長をやりませんか？」というキャッチコピーでやっております。

日本政策投資銀行様のほか、総務省、経産省、内閣府、観光庁からも後援をいただいております。

具体的には、まず、全国の学生に対し、「市長をやりませんか？」と参加者を募ります。毎年たくさんのエントリーをいただいておりますので、書類選考と面接選考を通過した24名の学生だけが鯖江に来ることができて、鯖江で2泊3日の合宿を行います。その合宿の期間中に鯖江をよくするためのプランを考えて、最終日に発表します。たったこれだけで、様々なところから評価いただいております。去年、一昨年は、こういう状況ですの、オンラインで開催しております。

どういった学生が全国から来ているかと申しますと、東大、京大、慶應、早稲田といった有名大学の学生たちが、なぜかたくさん来ています。交通費は一切出していません。観光で来られても困るので。さらに、賞金もありません。にもかかわらず、全国から鯖江に縁もゆかりもない学生たちが鯖江に来て、鯖江のための活性化策を考えてくれています。今年で第15回となりこれまで328名が参加をしています。

また、これまでたくさんのプランが実現しています。市長をやりませんかと言っている、政策立案コンテストと勘違いされますが、鯖江市には市民主役条例がありますので、誰がプランを実現してもいいんです。逆に言うと、行政が実現するようなプランは出すなということを学生たちにきつく言っています。もちろん、行政が、これはいい、鯖江市のほうでやりたいということがあれば、勝手に鯖江市のほうでやっていただければいいと思っています。

ですが、メインは市民ですので、ちゃんと市民を巻き込むようなプランを出してもらっています。これまでたくさんのプランを市民の方や業界団体の方々に実現をしていただ

いています。

また、このコンテストは、全国各地に広がっています。これは私が特に営業したわけではなくて、どうやって広がったかといいますと、鯖江のコンテストに参加した学生が自分の地元でもやりたいということで、私のように旗振り役となって広げていってくれています。

私がやりたかったことというのは、このプランコンテストで全国の学生に鯖江を知ってほしいということには違いありませんが、一番やりたかったことは、地元の学生の育成です。

東京の学生と福井の学生だと、やっぱり圧倒的な経験の差があります。これを埋めるためには、まず外の学生たちに鯖江に来てもらい地元の学生に刺激を与えることです。

当初は地元の学生にただ運営を手伝ってもらっていましたが、そこで刺激を受けた学生たちが、今度は自分たちが主体的に動きたいということで学生団体を作りました。

今は、彼ら彼女らが主体的にプランコンテストも運営しておりますし、地域活動もやっています。県内の大学に通う学生たちで構成された団体です。今では、地域の人たちにも頼られる存在になっております。

別に行政から言われたわけでも、学校から言われたわけでもないで、自分たちで自主財源を稼ぎつつ運営しています。この「学生団体with」は今年で12年目になります。

去年のプランコンテストのスポンサー一覧を見ていただくと分かりますが、本当にたくさんのお企業様から応援をいただいております。地元企業様がもちろんほとんどですが、大きいところでは、KDDI様や伊藤園様、NEC様などからも応援をいただいております。

現在、14回、15回目になりますが、実は11回からやり方をガラッと変えています。デザインシンキングを導入して、未来を創るコンテストに変えています。

こうしたプランコンテストを開催して様々な企業様に応援をいただけて、つながりができたことによって、さらに新しく「IT×ものづくり」の拠点、Hana道場を運営しています。先ほどのプランコンテストのスポンサーの一つにSAP様という企業がありました。ドイツに本拠地があるグローバル企業でございまして、SAP様が本拠地ドイツ、シリコンバレーに次いで世界で3番目に開設を支援したイノベーションのためのファブラボが、何と鯖江にあります。

それがHana道場なんですけれども、Hana道場では何をやっているかという、

主にITのまちを担う子供たちの育成を目的としまして、子供たちに鯖江生まれのIchigoJamを使ってプログラミングを教えていました。ここからが鯖江市のすばらしいところで、めちゃくちゃ行政が動くのが早くて、2014年にIchigoJamのパソコンが開発されました。さらに鯖江市の学校で実証実験をやろうということで、1校で導入し、2018年から全ての小中学校でやろうとなっていました。

こうした状況を踏まえると、学校の先生はプログラミングができませんので、確実に講師不足に陥ると思っていました。そのため、私たち民間が講師を育成しようと思い、今度は大人の方々向けにプログラミングを教えました。そうしたところ、地域の方など本当にたくさんの方が学びに来てくださいました。これも別に行政に言われたわけではないので、ちゃんと受講料をもらっています。

そうやって皆さん熱心に学んだ方々が、各学校に行き、今は教えてくださっています。鯖江は小さい町ですので、小学校12校、中学校3校ですけれども、全ての小中学校でプログラミングをずっとやっております。2019年からは総合学習の授業でもやっています。

このように取り組んできたところ、KDDI様からも「素晴らしい取組だ」とお声掛けをいただきました。このモデルを全国に広げていこうじゃないかということで、KDDI様と連携協定を結んでおります。コロナ禍でなかなか動けない状況ですが、「人材の地産地消」として、地域で人材を賄うということをやっています。

さらに、こうした取組に共感した県内外の企業様が、このHana道場に対してスポンサーになってくださっています。

私たちは地域の担い手を育成しています。

最近では、ここからさらに広がっているような活動をしています。

プランコンテストもHana道場も視察が本当にたくさん来ます。コロナ禍になって、もちろん多少は減りましたが、東京の高校生が研修旅行でも来るようになりました。鯖江市を学びの場とするスタディーツアーとしてです。特にプランコンテストにおいてですが、この町をどうしていくかという未来志向で、デザインシンキングという手法を使っているため東京の高校生が来てくれています。

さらに、これも私は想定外だったんですけども、東京の企業さんからも新人研修の御依頼がありました。

こうした状況を踏まえまして、右下のコミュニティシェアオフィス、Hana工房というのを私はつくりました。いろんな企業様が鯖江市に注目するようになってきて、今度は

サテライトオフィスの誘致を考えていたので、行政と一緒に話しながら検討する中で、シェアオフィスをつくったほうがいいなと思って自分で作ってしまいました。

そうしたところ、これも本当に想定外だったんですが、うちのシェアオフィスにサテライトオフィスを設置してくれた東京の企業さんがありました。そこが何と、今度は鯖江市に税金をちゃんと落としたいということで、何と会社をつくってくれました。ということで、企業誘致成功です。さらに、その企業誘致した会社に、学生団体withとか、プランコンテストで実行委員長をやっていた子が転職をして、その子がまたUターンでこっちに戻ってきて、今、この4月から鯖江の会社を回していています。

やってきたことが企業誘致や観光につながるということが分かったということで、今度は、せっかく鯖江はものづくりのまちですので、産業界も巻き込んで観光、研修コンテンツの充実を図っていこうということで、昨年度やったのがオープンSABAEという仕掛けです。

具体的に何をやったかといいますと、眼鏡、漆器、IT、農業、この4つのコンテンツの磨き上げを行いました。人が来るようになって、結局、その迎え入れるほうがちゃんと磨き上げられていないと駄目なんです。

満足度を上げなきゃいけない、鯖江市っていいねって思われなきゃいけないということで、まずは磨き上げをやる必要があります。

まずはコンテンツをつくるために、各事業所様の現状をヒアリングしました。どういったものをつくっていくかということ、話し合いました。さらにガイド研修というのをやって、各事業所様に受けていただいて、おもてなし向上のためのノウハウを学んでもらいました。その上で、モニターツアーを2回実施しています。1回目のモニターツアーでのフィードバックを基にさらに磨き上げたんですけれども、第2回には満足度がぐっと上がりました。

さらに、眼鏡や漆器の方は元々、観光系の産業ではありませんので受け入れるのも初めての方が多かったので、申込書やキャンセルポリシー、同意書等を作成して、各事業所で使えるよう共有をしていきました。

様々なモニターツアーをやってコンテンツを磨き上げていますと、先月、兵庫県丹波市の企業様が視察にいらっしゃいました。

今、この企業研修や教育旅行の誘致につなげていきたいということで、いろんなモデルツアーを企画してまして、例えば、ITでアイデアを形にする企業研修や、ものづくり

×プランコンテストで、企業様がものづくりの現場を見ながら、何か課題を発見し、それをどうやったら解決できるかということを考える、それを合宿形式でやるというようなコンテンツなどを作っています。企業向けだけではなく、高校などの教育旅行も対象としてつくり込んでいます。

さらに、今年の8月には鯖江市の中心部でゲストハウス、ホステルをオープンする予定でして、1階はコミュニティスペース、2階が宿泊施設になっていますので、宿泊とセットで誘致をやっていきたいと思っています。

ものづくり×デザインシンキングや、ものづくり×IT（プログラミング）、こういったものを出して行って誘致につなげていくことや、新しくつくるのもいいと思います。どこか大きな企業様を呼んできてお金をかけてやるのもいいと思いますが、各地域には、すでにすごくいいものが絶対にあると思います。それをどう磨き上げてコンテンツ化して行って魅せるかということをしていく必要があると思います。その地域の歴史とか文化とか産業とか、そういうそこでしかないものこそが、コンテンツとして見せていけるのかなと思っています。

私たちがターゲットとしているのは、B to CではなくてB to Bです。もしB to Cだと、いろんな観光で来ているんなものづくりのところに行っても、職人さんの対応も難しいですし、企業様などのほうがまとめてお金が落ちるということもありますので、今の鯖江市にはB to Bが合っていると思いますので、どんどん企業様や団体様に営業をかけて誘致していきたいと思っています。

説明は以上でございます。ありがとうございました。

以上